

# 副産物情勢

平成29年1月6日

JA全農ミートフーズ株式会社

内 容		備 考
1.内臓	①国産牛	<p>○平成28年11月成牛と畜頭数は、103.6千頭(前年比97.9%)となり、20ヶ月連続で前年割れとなった。内訳を見ると、和牛が47.5千頭(前年比94.7%)、交雑牛21.8千頭(同103.9%)、乳牛去勢17.4千頭(同97.9%)であった。和牛、乳牛についての出荷頭数減少傾向が継続していることが伺える。</p> <p>○平成28年12月の成牛と畜頭数は、速報値(12/28まで集計)で93.7千頭(前年比92.0%)と減少している。</p> <p>(独)農畜産業振興機構が12月26日に公表した牛肉の需給予測によると、出荷頭数は、交雑種は酪農家における乳用牛への黒毛交配率の上昇により増加が見込まれるものの、和牛および乳用種は減少が継続すると見込まれる。全体では、12月、1月ともに1日当たりの出荷頭数は前年を上回るものの、と畜場稼働日数が前年を下回ると見込まれることから、前年を僅かに下回ると予測している。</p> <p>○需要動向については、全体的によく動いている。赤モノは依然不足気味である。レバーの動きも継続している。シロモノは小腸、小腸・盲腸ともこの時期にしては昨年に比べ動きが鈍い状況である。気温が高いことと、輸入が大量に入っていることが原因のひとつと思われる。今後、と畜発生数の増加が全品種ともに見込めないことから今後も全体的な需要は継続すると思われる。</p>
	②国産豚	<p>○平成28年11月度全国の肉豚出荷頭数は1,462千頭(農林水産統計12/27公表 前年比103.7%)となった。農水省9月21日発表の11月出荷予測では、1,488千頭(前年比106%)と予測されていたものの、26千頭下回る結果となった。</p> <p>○平成28年12月の全国と畜頭数は、速報値で1,404千頭(12/27まで集計)、前年同比94.7%となっている。稼働日数では昨年と同じ18日となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で72,378頭となっている。</p> <p>○農水省によると、今後の出荷予測頭数は平成29年1月1,417千頭(同105%)、2月1,377千頭(同101%)、3月1,464千頭(同101.0%)となっている。</p> <p>○需要動向についてはアカモノは全体的に堅調である。レバーは外食向け味付け焼材が好調であるためか動きが継続している。シロモノは在庫も満腹感がある状態で、小腸は動いているが大腸が昨年に比べ動きが鈍い状況である。豚足は市中在庫が重く下落傾向。</p>
	③輸入牛	<p>○平成28年11月の輸入通関実績は、輸入量合計で43.7千ト(前年比97.8%)であった。内訳は、チルドが21.1千ト(前年比115.0%、前月比120.7%)、フローズンは22.6千ト(前年比85.8%、前月比94.9%)であった。チルドビーフについては、豪州産が10.3千ト(前年比89.0%)と減少したが、米国産が9.8千ト(同163.9%)と大きく増加となった。</p> <p>(独)農畜産業振興機構が12月26日に公表した今後のチルドビーフ輸入量予測によると、出荷頭数減少により豪州産の減少が見込まれる。12月はかなりの程度、1月は大幅に、ともに前年を上回り、11月から1月の3ヶ月平均でも前年をかなり大きく上回る月間19.0千ト前後になると見込まれている。</p> <p>○平成28年11月の冷凍輸入牛レバーは76.0ト(前年比125.7%・前月比102.7%)であった。国別では、米国産が45.4ト(前年比128.2%)、豪州産は30.6ト(同125.2%)、メキシコ産がなしとなった。</p>
2.原皮	①牛原皮	<p>○平成28年11月の輸出実績は、26,770枚(前年比129.4%、前月比105.1%)で、前月・前年とも上回った。輸出平均価格は4,809円/枚(前年比-2,420円、前月比-26円)となった。国別実績は、韓国11,160枚(前年比260%)、タイ12,510枚(同168.4%)、香港1,150枚(同17.5%)、台湾1,200枚(同230.8%)、ベトナム1,950枚(前年なし)。一方、ウエットブルーの輸入は、74.6千枚(前年比135.9%、前月比89.6%)、牛大判皮は40.8千枚(前年比98.3%、前月比95.6%)となった。輸出動向は前年・前月ともにプラスに転じ、なかでも韓国・タイ向けの数量が増加した。一見数量的に回復基調にみえるが、海外のタンナーでは在庫が山積しており回復傾向とは言い難い。</p> <p>○国内動向については国内発生量は減少しているものの、輸出向けの不振により依然姫路向け一極集中が続いており荷余り状態が深刻化している。輸出数量との減少もあるが、今年に入って価格も下がる一歩であり深刻な状況である。先行きが見えない状態である。</p>
	②豚原皮	<p>○平成28年11月の輸出合計は、1,041,830枚(前年比90.5%、前月比90.0%)と、前年・前月とも下回った。輸出価格は778円/枚で前月比+28円、前年比+151円であった。国別実績は、台湾241千枚(前年比57.4%)、タイ705千枚(同118.5%)、韓国50千枚(同213.2%)、香港11千枚(同20%)、ベトナム35千枚(同60.0%)で、フィリピンの実績はなしであった。</p> <p>○輸出動向については、この時期は通常輸出量は徐々に落ち込んでいくが、現時点でも輸出量は安定している。今後もヌバック需要等により現時点でも需要が見込める状況が継続している。円安傾向も輸出を後押ししているが、中国の落ち込みがマイナス要素である。</p>
3. レンダリング	①油脂等	<p>○12月渡しの国内産食用加工油脂向け価格は、豚脂が前月同じだが、前年に比べ5円マイナスの88円(前年比94.6%)、牛脂は前月・前年とも同じの93円(同100.0%)。</p> <p>○11月マレーシア産パーム油相場は、事前予想に反して生産が減少し在庫も少なく、需給が逼迫しているため上げて106円となった。(前月比112.8%、前年比117.8%)。今後は季節的な減産期入りで、目先の供給はタイトなまま推移する予測。</p> <p>○11月の関東飼料用油脂は前月と同様の70円/kgと前年比13円安で、工業用油脂も同様に47円/kgの前年比13円安。12月はもちあい。</p> <p>○11月のUCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格は、前月と同様の61円～64円/kg辺り。前年比13円安。12月はもちあい。</p>

1. 東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg

価格改定年月日	牛内臓	豚内臓
平成23年5月26日	34/枝kg	8/枝kg
平成24年7月6日	30/枝kg	8/枝kg
平成24年11月19日	30/枝kg	7/枝kg
平成26年6月9日	30/枝kg	9/枝kg
平成26年11月10日	35/枝kg	9/枝kg
<b>平成28年6月6日</b>	<b>40/枝kg</b>	9/枝kg

\* 豚正貫物

2. 大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg

価格改定年月日	牛内臓	豚内臓
平成20年3月10日	50/枝kg	3/枝kg
平成20年5月1日	50/枝kg	5/枝kg
平成23年6月20日	40/枝kg	5/枝kg
平成24年7月13日	30/枝kg	5/枝kg
平成26年11月10日	35/枝kg	5/枝kg
<b>平成28年5月30日</b>	<b>40/枝kg</b>	5/枝kg

\* H23.4.1から枝重500kg以上が510kg未満に改定

3. 東京市場原皮価格 単位:円/枚

価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮
平成23年7月1日	1,000/枚	110/枚
平成25年2月1日	1,000/枚	140/枚
平成25年6月3日	1,000/枚	160/枚
平成26年1月6日	2,000/枚	200/枚
平成27年4月1日	2,000/枚	170/枚
<b>平成28年4月1日</b>	<b>2,000/枚</b>	<b>150/枚</b>

\* 交雑牛含む

4. 大阪市場原皮価格 単位:円/枚

価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮
平成23年2月21日	1,300円/枚	30/枚
平成23年7月11日	1,300円/枚	70/枚
平成25年2月8日	1,300円/枚	100/枚
平成25年6月10日	1,300円/枚	120/枚
平成26年1月6日	2,300円/枚	160/枚
<b>平成27年4月13日</b>	<b>2,300円/枚</b>	<b>130/枚</b>

5. 油脂価格/kg(食用向け)

価格改定年月日	牛脂	豚脂
平成26年8月1日	88	93
平成27年7月1日	91	93
平成27年8月1日	93	93
<b>平成28年6月1日</b>	<b>93</b>	<b>88</b>